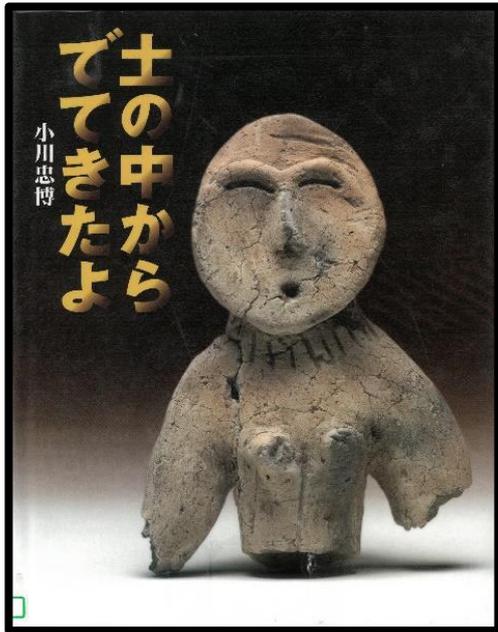


つち なか
土の中からでてきたよ



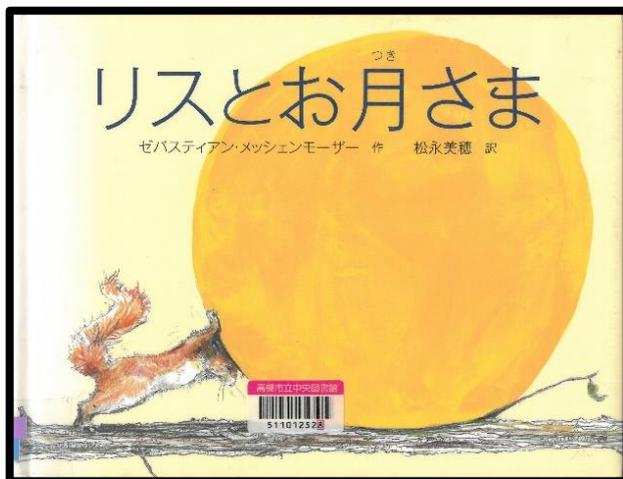
おがわ ただひる
小川 忠博/写真と文
あひこ しょうじ
安孫子 昭二/監修
平凡社〔210〕

これはなに？土の中からいろ
んな顔がでてきたよ。

むかしの人が住んだ跡を遺跡
といいます。日本各地の遺跡か
ら、うんちや舟、つり針などいろ
んなものが見つかっています。

土の中に残されたものから、
当時のくらしを感じることができる
写真絵本です。

つき
リスとお月さま



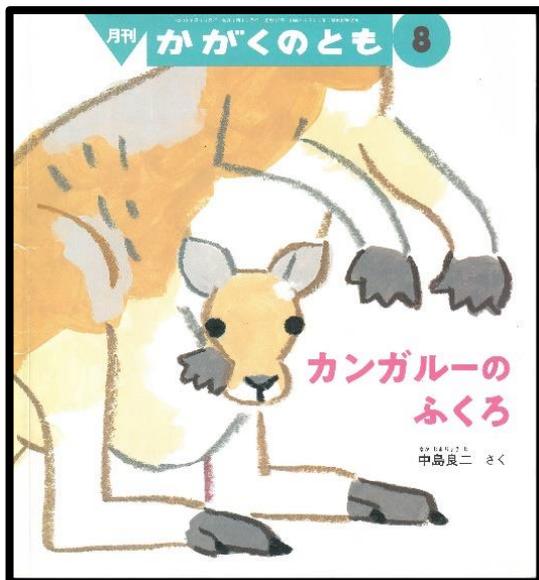
ゼバステイアン・メッセンモーザー/作
まつなが みほ
松永 美穂/訳
コンセル〔エ〕

ある朝、木の上のリスの家に、
お月さまがおこちてきました。

だれかがお月さまをぬすんで、
おとしたのかもしれませんが。みつ
かったら、どろぼうとおもわれて、
ろうやにいれられちゃう。リスはお
月さまをどこかへやろうとしますが、ハリネズミやヤギ、ネズミたち
をまきこんでおおさわぎになってし
まいます。

動きのあるおもしろい絵が
魅力的なお話です。

カンガルーのふくろ



かがくのとも 2020年8月号

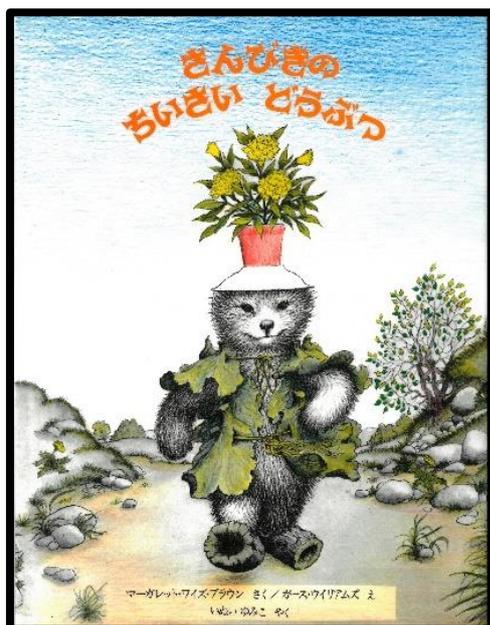
なかじま りょうじ
中島 良二/さく

福音館書店

メスのカンガルーのおなかには、ふくろがあって、そのなかで赤ちゃんをそだてます。赤ちゃんは、生まれたとき、ひとのこゆびのさきと同じくらいおなの大きさしかありません。ふくろには4つのおちちがあり、その1つにすいついてゆっくりとそだっていきます。

ふだんは見るできないカンガルーの赤ちゃんが、ふくろの中でそだつようすがくわしくしょうかいされています。カンガルーのふくろのひみつにせまってみましょう。

さんびきのちいさいどうぶつ



マーガレット・ワイズ・ブラウン/さく

ガース・ウイリアムズ/え いぬい ゆみこ/やく

ペンギン社[エ]

さんびきの小さい動物いぬが、森のおくの小さい家にすんでいました。ある日、「にんげんのせかいはどんなところだろう?」とおもい、ようふくをきていっぴきずつ町へ出ます。町では、みんながようふくをきていて、おたがいにみわけがつかません。

さんびきは、そろってぶじに森へかえることができるのでしょうか。

けがわのふしぎな動物たちが、かわいらしくいききとえがかれています。